

平成 22 年 9 月 1 日



まねん

KKR 広島記念病院広報誌

第 17 号

発行所〒730-0802
広島市中区本川町1-4-3
国家公務員共済組合連合会
広島記念病院
Tel(082)292-1271

<http://www.kkrhiroshimakinen-hp.org>

開院 60 周年 を 迎 え て

当院は平成 22 年 8 月 1 日をもって、国家公務員共済組合連合会の直営病院として 60 周年を迎えました。

広島記念病院開設に至る経緯は、昭和 20 年 8 月 15 日に終戦を迎え、大陸からの引き揚げ者の方々に対しての救護活動が、旧京城帝国大学医学部の今村豊教授を中心とした職員と学生による移動医務局となり、その後博多の名刹聖福寺の境内を借りての救護活動に発展したことが始まりとなっています。

引き揚げ者の救護活動が一段落した昭和 22 年 1 月から、広島で原爆被害者の救護活動を始め、12 月 15 日には木造 2 階建の 44 床、診療科は内科・外科・婦人科・耳鼻科・理学療法科、今村豊病院長他職員 16 名で在外同胞援護会広島記念病院としてスタートしました。

昭和 24 年 9 月に、今村豊先生が広島大学教授として転出され、副院長の山野上牧夫先生が院長に就任し、その翌昭和 25 年 8 月 1 日、非現業共済組合連合会（現在の国家公務員共済組合連合会）の直営病院となり、今日に至っています。

この間、広島県医師会・広島市医師会・広島大学医学部および関係各位の絶大なご支援、ご鞭撻と、先輩職員の方々の弛まぬ努力により、今日の良質な医療を提供できる病院となりました。

60 周年を迎えるにあたり、去る 8 月 7 日（土）リーガロイヤルホテル広島に於いて、初の試みである特別記念講演会及び記念祝賀会を開催しました。



講演会では、ロボット工学に於ける世界の最先端研究開発支援プログラムの中心研究者で、人間・機械・情報系の新学術領域「サイバニクス」を開拓された筑波大学大学院システム情報工学研究科 教授（CYBERDYNE 株式会社代表取締役 社長）の山海嘉之先生に、「サイバニクス最前線：ロボットスーツの医療福祉への応用と未来医療への展開」と題して、ご講演をいただきました。これ迄の先生の素晴らしい

ご業績がふんだんに盛り込まれた講演会に、200名以上のご臨席をいただくことができました。

様々な立場の参加者に対応した分かりやすい講演内容で、映像、行政への働きかけ、マスメディアの楽屋裏を垣間見る楽しさに加えて、ITや先端技術開発が、医療・生活福祉に生かされる可能性を感じた楽しい時間でした。そして、近未来に手の届きそうな画期的な開発を、世界に発信しながら活躍されていることに感銘いたしました。

皆様には、「わくわくした気持ちで」将来の日本医療の進出方向の一端を拝聴して頂いた様に思います。



講演会に引き続き、懇親会の小宴を開かせていただきました。ご来賓の方々を代表して、広島県医師会副会長 檜谷義美先生、広島市医師会会長 長崎孝太郎先生よりご祝辞、広島大学大学院教授 末田泰二郎先生より乾杯のご発声をいただきました。

祝賀会には250名余りの参加を頂き、日頃よりお世話になっている先生方と直接話すことができる大変有意義なものになったと思います。

会の終わりには広島大学大学院教授 赤川安正先生から万歳三唱のご発声をいただき、当院診療部長 隅井雅晴医師による閉会の挨拶をもちまして、祝賀会を終了いたしました。

この度の特別記念講演会及び記念祝賀会が、皆様のお陰をもちまして、無事、成功裡に終了することが出来ましたことを、改めて心より御礼申し上げます。

当院では、昨年2月より地域医療支援病院の名称使用の許可を受け、医療懇談会・医療従事者研修等を通じて地域の医療機関の方々と、さまざまな交流の場を作りました。また、今年度一年をかけて病院と診療所、病院と病院同士の双方向で、画像・病理診断等の診療データの参照ができるように、病診連携システムの構築を行っているところです。

今後も更に、職員一同一丸となって、ますます地域医療支援病院として、地域に貢献できる病院を目指していきます。引き続き、皆様のご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



膵臓と胆道系の炎症性疾患（病気）について

広島記念病院内科 膵・胆道医長 江口 紀章



我々消化器医が一般に診療する際に出会う、胆石症やそれに伴う胆道感染症および膵炎についての特徴や注意すべき点について簡単にまとめてみましょう。

①急性膵炎

日本における発生頻度は27.7人/10万人/年、男女比は約2:1で男性に多い疾患です。年代では男性は50歳代、女性では70歳代がピークです。

アルコールと胆石が2大成因で、男性ではアルコール性、女性では胆石性が多くみられます。

アルコール性急性膵炎は46%に再発し、80%は4年以内に生じたとの報告があります。胆石性膵炎では、初回に胆石の処置が行われなかった場合32~61%に再発するとされています。従って一度胆石性膵炎を起こした際には、胆嚢摘出術を受けることをお勧めします。致命度の高い重症急性膵炎では20%に再発があり、特にアルコール性膵炎での再発率は32%と高く（飲酒継続例では57.7%、慢性膵炎移行例では74.5%）、禁酒が絶対に必要です。

急性膵炎の診断

1. 上腹部に急性腹痛発作と圧痛（90%以上）。
2. 血中または尿中膵酵素の上昇。
3. 超音波、CT または MRI で膵に急性膵炎に伴う異常所見がある。

ではどの血液検査が有効でしょうか？

1. 血中リパーゼ（感度でアミラーゼと同等、特異度で優っている）。
2. 血中アミラーゼ（膵アミラーゼ）。
3. エラスターゼ1となります。

②急性胆道炎

1. 急性胆道炎を疑う臨床症状とは？

急性胆管炎；発熱、悪寒、腹痛、黄疸（アンダーラインのいわゆるCharcot 3 徴を満たすのは50~70%程度で、更にReynolds 5 徴（+ショック・意識障害）まで満たすのは30%以下です。まずは発熱・腹痛（右季肋部痛）に注意して下さい。

急性胆嚢炎；腹痛（右季肋部痛）、悪心・嘔吐、発熱

Murphy sign（吸気時に右季肋部を押さえると呼吸が止まること）は特異度が79~96%と非常に高く、有効な腹部触診法です。是非、呼吸の状態に注目して触診を行って下さい。

2. では最初に施行すべき検査は？

・血液検査；CBC（白血球・特に血小板は重要）、生化学ではT.bil, CRP, AST, ALT, ALP, r GTPが必要です。膵炎との鑑別にamy, 腎機能のBUN, Crも加えておきたいところです。

・画像診断；何をおいても腹部超音波検査です。CT・MRI（MRCP）も有用であるし、腹部単純X線写真も他疾患との鑑別で有用です。

3. 鑑別すべき疾患は何があげられるでしょうか？

- ・急性胆管炎では急性胆嚢炎、胃十二指腸潰瘍、急性膵炎、急性肝炎などで
- ・急性胆嚢炎では胃十二指腸潰瘍、胆嚢癌、狭心症・心筋梗塞などです。

最後に見落としがちな最も重要なサインをもう一度

急性胆道炎以外では、発熱を訴えることはほとんどありません。普段と比べて熱があるかどうかはついつい聞き落としがちな症状です。是非とも重要な臨床上のサインとして問診聴取を行って下さい。

急性膵炎や急性胆道炎は初期治療が遅れると、重症化や長期化しがちな病気です。今回はその観点より述べさせていただきました。胆石症や胆嚢ポリープなどのより一般的な病気については、項を改めて述べさせていただきます。

膵管・胆道系の名称

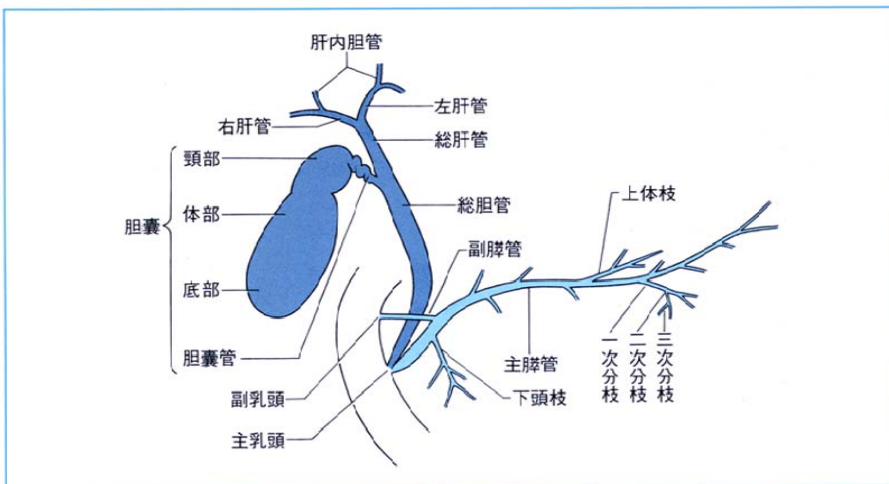
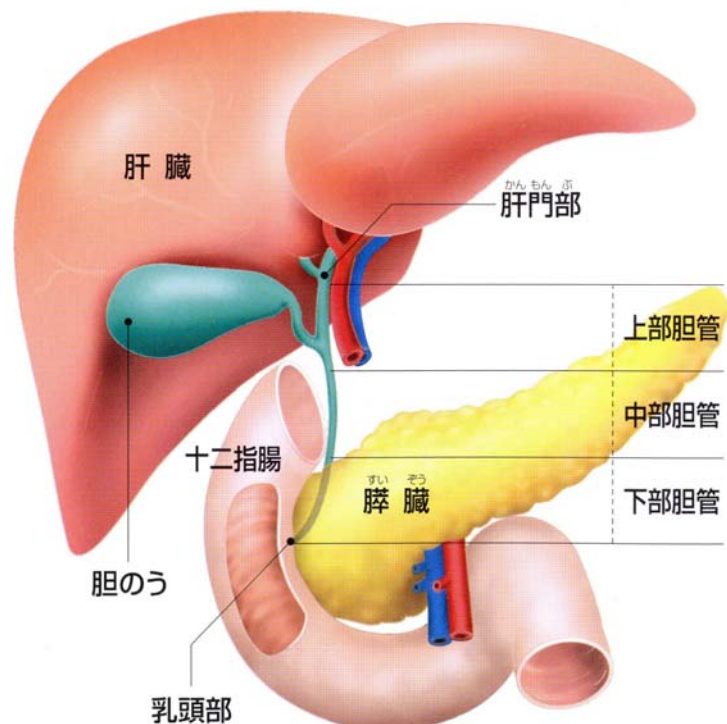


図 1-10 膵管・胆道系の名称

Hiroshima-kinen Hospital



産婦人科紹介

婦人科医長 横田康平



産婦人科医不足が言われている中、広島記念病院産婦人科では平成 22 年 4 月から女性医師が 1 名加わり、男性医師 2 名、女性医師 2 名の 4 人体制となりました。それに伴い、火・木曜日午後の手術日を除いて、午前・午後ともに 2 診制とし、外来患者様の診察待ち時間の短縮を目指すとともに、子宮鏡及び 4D 超音波診断装置を導入し、外来診察の充実を図っています。

産科では平成 22 年 1 月から助産師外来を、7 月からフリースタイルによる院内助産を開始し、妊婦様の多様なニーズに対応できるようにしています。

婦人科では従来より、子宮筋腫や子宮脱の腔式手術及び良性卵巣腫瘍や不妊症の腹腔鏡手術を行っていますが、両手術ともに低侵襲ということで、患者様に大変好評です。また、腔式や腹腔鏡でできない良性疾患の開腹手術では、できるかぎり皮膚切開を横切開とし、皮下ドレーンによる脂肪吸引を行い、これも患者様に喜ばれています。

4 月から子宮頸がん予防のための HPV ワクチン接種を行っています。10 歳から 45 歳くらいまでの女性を対象に、0,1,6 カ月後に 3 回、上腕の三角筋部に筋肉内接種します。3 回の接種で少なくとも 20 年間有効で、子宮頸がんの約 7 割が予防できます。電話で予約を受け付けていますので、HPV ワクチン接種をご希望の方がおられましたら宜しく願い申し上げます。



産科医長 中野正明



産科医師 羽原章子



産科医師 本田奈緒

院内助産開始

院内助産プロジェクトチームリーダー 杉田 静

平成 21 年 1 月 21 日より、助産師外来がスタートし、現在 12 名の妊婦様が利用されています。当院のホームページや、新聞の記事を見て、助産師外来に興味を持って下さる妊婦様やご家族が増えてきています。この事を、スタッフ一同とても嬉しく思っています。



また、4 階病棟では、平成 22 年 7 月 7 日より、院内助産「ほのぼの」が開設となりました。院内助産とは、正常な妊娠経過の妊婦様を対象に、妊娠中から産後まで信頼関係を築きながら、助産師が関わるシステムです。

(院内助産練習風景)

妊娠中は、助産師外来や保健指導を行いながら、ひとりひとりの分娩に向けての思いを聞いていきます。分娩時は、院内助産のための部屋を利用し、産婦様とご家族が満足のいくお産となるよう、サポートしていきます。

妊婦様とご家族が、より満足する妊娠生活・分娩・産後となるよう、助産師・看護師・医師が協働し、同じ目標に向かって取り組んでいます。



院内助産練習風景

認定看護師の紹介

看護部 中野 隼



2010年7月感染管理認定看護師の資格を取得しました。

感染症はヒトからヒト、あるいはモノや動物などからヒトへ伝播する病気です。この伝播を防ぐことが私の任務です。感染管理とは、病院内外で発生する感染症の動向を的確に把握し、特に病院内で広がることを防ぐ活動です。

現在、感染管理の核として組織を横断し、活用可能で実践的・効果的な感染対策はもちろん、院内の職員教育や相談に応じながら、エビデンスに基づいた感染対策の実施を目指しています。

主な活動として以下の感染プログラムを計画し、実行しています。

1. 院内ラウンド
2. 感染管理教育
3. サーベイランス
4. コンサルテーション

患者や職員に、どのような感染管理上の問題が存在し、どのような対策が必要であることを明らかにするために、組織横断的に活動する感染対策チームを作り院内ラウンドを行っています。

医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師等で構成される感染対策チームでは、現場を自分達目で確かめ、各職種の特徴を生かして意見を出し合い迅速な対応ができるチームを目指しています。

感染管理教育では、エビデンスを基に根拠をもって職務を遂行できる医療従事者育成を目指します。

特にリンクナースの育成では感染プログラム実践のサポート隊として、大きな成長を成し遂げなければなりません。リンクナース自体が目的を持って感染対策について考えられる人材育成が必要です。

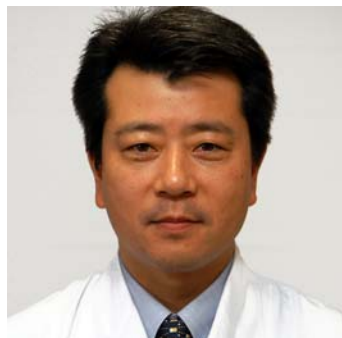
サーベイランスでは、感染症データの把握、感染防止技術、耐性菌患者の管理などの知識普及、実践援助、疫学に基づいた院内感染サーベイランスの実施に向けて取り組んでいます。ひとたび手術部位感染症（Surgical site infection 以下 SSI）が発生した場合の在院日数の延期などは患者、家族にとって深刻な問題となります。患者、病院ともに不利益を出さないためにも、SSI 発生率把握し、対策の評価をするために SSI サーベイランスの実施に向け早急に準備しています。

また、感染管理における悩みや問題があれば、いつでも相談でき職員一人一人が主体的に問題解決できる能力をサポートできるコンサルテーションシステムも稼働中です。

感染管理に関する分野での問題やお困りの事がありましたら、御気軽にご相談ください。

薬剤科の紹介

薬局長 古元俊徳



病院薬剤師の基本的な業務は、調剤、製剤、DI業務、薬品管理、医薬品の適正使用の推進などですが、個々の占める割合がこの四半世紀で大きく変わりました。医薬分業が推進されたことにより、調剤を中心とした外来業務から、入院患者さんへの服薬支援を中心とした病棟業務へと大変革しました。

入院患者さんに対しては、適切な薬物療法が実践できるように、そして患者さんのアドヒアランス向上に繋がるように、病棟での服薬支援に取り組んでいます。また医薬品の専門家としてチーム医療（感染制御、がん化学療法、緩和ケア、褥瘡対策、栄養サポートなど）に参画することで、医療の安全確保と質の向上に努めています。例えば、抗MRSA薬のTDM解析。またがん化学療法では、治療計画の検討に始まり、レジメン管理、見直し・評価を行っています。抗がん剤の無菌調製もすべて薬剤科で行うようになりました。患者さんに対しては、安心してがん化学療法が受けられるよう副作用対策などを中心に服薬支援をさせて頂いています。

患者さんが入院されたとき、持参薬を確認させて頂いておりますが、実際の処方通りに服用されていなかったり、中止すべきお薬を服用されていたり、薬袋と中身が違っていたり、家中の人のお薬だったり、逆に神経質なくらい几帳面に管理されていたりと様々です。また日常的に摂取されている健康食品や食べ物の中には、医薬品との相互作用が報告されており注意が必要です。また後発医薬品の使用促進という背景もあると思いますが、なじみの薄いお薬を目にすることが多くなりました。患者さんのお薬情報を一元管理するという観点から、最近では“お薬手帳”がかなり認知されております。当院においても入院期間中に発現した禁忌情報や、服薬に関する注意点、副作用・アレルギーなどの情報を、患者さんが退院されるときには、お薬手帳に記載しております。この“お薬手帳”が開業医の先生方との連携のひとつの道具として発展していけばと考えています。

平成18年4月より、薬学教育改革に基づき薬学教育6年制が導入されました。本年度より5年次生の長期実務実習が始まります。病院での実務実習は2.5ヶ月ですが、従来の見学型実習から、個々の患者の症状や背景を考慮しながら、個別かつ有効で安全な薬物療法の提供に積極的に貢献できうる薬剤師を養成することを目的とした参加型実習となります。当院においても本年度2名の学生が実習を行います。

高度化・多様化している医療技術を習得するための日々研鑽は当然のことですが、患者さんにとって、「頼りになる薬剤師」「優しい薬剤師」「相談にのれる薬剤師」となれるよう努力してまいりますので、今後とも宜しくお願い致します。

院内研修会・行事について

地域医療従事者研修開催にあたって

医療安全管理室 統括リスクマネージャー 江村陽子

平成 22 年 4 月 27 日 18:30～19:45 開催

テーマ 「ヒヤリハット KYT シートを使用して危険予知能力を磨こう」



地域の医療従事者を対象にした医療安全に関する研修会の企画は今年で2年目になります。昨年5月に企画したKYT（危険予知トレーニング）がとても好評であったため、今年度もパートⅡと題して、前回の基礎編に対して、実践編として現場でのKYTシートを使用した研修を企画しました。

今年も昨年を上回る参加希望者がありました。皆さんの興味・関心のあるテーマである

ことを改めて認識しました。

今年は、25施設、7職種（医師、看護師、介護福祉士、事務、薬剤師、放射線技師等）58名で実施しました。地域の皆様との顔合わせ、多施設の方といろいろな意見交換ができ、交流の場となったのではないかと思います。

当日は、当院の医療安全対策委員のメンバーが、グループワークに2名ずつファシリテーターとして参加しました。狭い会場でしたが、にぎやかに楽しく進行することができました。初めての方が多かったのですが、KYTの一連の進め方の流れを理解することができた、同じものを見ても考え方の違い、感じ方の違いがあることが分かった、話し合うことで色々な意見を知ることができた、より具体的な行動目標の必要性がわかった、一人が行うのではなく全員で取り組むべきものである等、企画側が期待していたことの学びはできたのではないかと考えます。

今回、多施設でも関心が高かった「KYT（危険予知トレーニング）」を行ったことはとても効果的だったと考えます。施設は異なっても、危険を予知できる能力を高めることで、少しでも危険を回避できるのではないかとこの共通の意識や、実践していこうという

同じ目標を持つことができました。そして、互いに安全な医療・看護の提供を真剣に考え、取り組む場となりました。さらに地域とのつながりを強化する機会となったと考えます。

KYTは継続していくことに意味があり、研修を受けられた皆さんがそれぞれ現場で実践し、安全に対するリスク感性を高め、危険が潜んでいることに自ら気づくようになることを願っています。



看護の日

看護部 酒井 紗登美



5月12日に「看護の日」のイベントを広島記念病院の1階フロアにて行いました。1階フロア特設会場で、メタボリックシンドロームの健診（身長・体重・血圧・骨塩定量・体脂肪の測定、栄養・健康相談）や足マッサージ、正しい手洗い・マスクの着用方法、AED（Automated External Defibrillator、自動体外式除細動器）の実演を行いました。

今年度も面会にこられた方、近隣の方々など60名の多くの方が参加して下さいました。

体脂肪や骨塩定量の測定をされた方の中には、「毎年、年に一回これを楽しみにしている。」「体脂肪知りたい」といわれ興味を持っている方が多くいらっしゃいました。測定後には、管理栄養士よりメタリックシンドロームや骨粗しょう症の予防についてパンフレットを用いて栄養指導が行われ、皆さん、熱心に聞いておられました。

手洗い方法の指導では、きれいに手洗いをしていると思いながらも、爪の間や親指に汚れが残っていたと言われる方や、普段しっかりしているようでも30秒間手洗いをするのは長い、という感想をいわれる方も多くおられました。

AEDの実演には、特に関心をもっておられる方が多く、熱心に実演を見ておられる方や「ネックレスはどうしたらいいの?」や「いつまでしたらいいの」など、質問される方もおられました。また実際に参加者の方にAEDの実技や人形を使った心臓マッサージを体験していただくこともできました。

今後も、広島記念病院看護部は地域住民の方々の健康増進のため、生活習慣病予防の意識向上や、疾病予防に貢献していきたいと思っております。



第 10 回癌疾患関連セミナー

5 月 20 日

地域医療連携室

木坂 由紀

今回は広島大学病院泌尿器科・松原昭郎教授を講師にお迎えし、「前立腺癌の診断と治療」というテーマで御話頂きました。

普段、我々が健康診断・人間ドックでよく耳にする PSA の話から始まって、最新の治療方法・予防する方法はあるのか？というところまで、多岐にわたり御話頂きました。

特に印象に残ったのはロボット支援手術のスライドで紹介された手術ロボット・「ダヴィンチ」の映像で、参加者は釘付けになりました。



病院から遠く離れた場所にあっても、ロボットさえあれば、遠隔操作で手術できるようになるかもしれないのです、近い将来そんな日が訪れるのでしょうか？壮大な御話に思わず感嘆の声が漏れる程でした。

総勢 53 名の参加となりました。平日御忙しい診療の後にご参加頂きました連携医の先生方、ありがとうございました。

院外広報 ゲストティーチャー（手洗い指導）

6 月 18 日

看護部 住川 真衣子



看護部では、地域に密着した病院を目指す一環として本川小学校・本川保育園へ感染予防の指導を行っています。

小学校では、1年生の児童へ、スライドを用い、手洗い方法を指導した後、グリッターバグを使用し、洗い残しを確認してもらうことにより、手洗いの重要性を理解してもらいました。また、小児用のマスクを用いて、マスクのつけ方・咳エチケットの説明を行いました。どの児童も集中してスライ

ドの画面を見つめ、質問や自分の手洗いの方法を話してくれました。

参加した児童からは「手洗いがんばる」、「また来てね。」などという声も聞かれ、先生からも「児童が集中して聞いていました。」とコメントを頂きました。また、昨年手洗い指導を行った2年生からも「去年私たちもしたよ。〇〇看護師さんから教えてもらったの。手しっかり洗っているよ。」と、声をかけてくれました。1年たった今も印象に残っているようです。先生方は、昨年の指導後、2年生のハンカチ持参率が上がり、石鹸の使用量も増えたと話





してくださりました。

本川保育園でも、小学校同様に指導を行ないました。今後も地域の皆様の健康の維持・増進のため、このような活動を継続していきたいと思えます。

地域医療従事者研修会

「広島記念病院におけるNST活動について」

栄養科 北野 旭美

6月24日、当院外科医師、坂下吉弘先生にNSTについてお話していただきました。NSTとはNutrition Support Team（栄養サポートチーム）の略で、今年度の診療報酬改訂で「栄養サポートチーム加算」が新設されたこともあり、関心の高い分野であると思われる。院内外より総勢73名の参加がありました。

今回の研修では栄養管理の基礎から、栄養評価の方法、そして当院のNST活動の現状まで幅広くお話を聞くことができました。栄養管理は全ての患者様に必要であり、医療を支える重要なものであることを再確認することができました。当院は静脈経腸栄養学会よりNST稼働施設として認定されています。今後、よりいっそうNST活動に力を入れていかなければならないと感じました。

看看連携研修 「摂食嚥下研修会」報告

看護部 酒井 美明



6月30日、「摂食嚥下研修会」を当院、3階の講義室にて開催致しました。

講師に医療法人社団朋和会 西広島リハビリテーション病院 言語聴覚士 沖田 啓子さんをお迎えし、「摂食嚥下障害のケア —「食べること」を知る—」と題し、ご講演いただきました。

実際にご飯を用意して、参加者がその場で咀嚼し、嚥下をするという大変ユニークな研修内容でした。普段行っている食事介助を自分の身に置き換え、一つ一つの動きに注目する事で、今まで気付かなかった沢山の発見をすることができました。実は「食べる」という行為が、様々な器官からなるとても複雑な運動

であることに気付くとともに、研修内容を実践の場に活かせるとても有意義な研修であったように思います。

平日の夕方ではありましたが、遠くからもご来院いただき、総勢 83 名の参加があったことから、摂食嚥下に関する関心の高さをうかがい知ることができました。また当日の会場が手狭でありながら、多数のご参加をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。

今後も広島記念病院と致しまして、多数研修を企画しておりますので、どうぞお気軽にご参加ください。これからもどうぞよろしくお願い致します。



育児学級イベント・七夕会

7月7日

看護部 本田 亮子 丸亀 優子



このたび、4階病棟では初めての育児学級イベント・七夕会を行いました。30組のお母さんと赤ちゃん、おばあちゃんやお兄ちゃんお姉ちゃんも参加してくださり、とてもにぎやかな七夕会になりました。

初めての開催ということもあり、至らないところもたくさんあったと思いますが、お母さんと赤ちゃんの明るい笑顔と元気な声に助けられて無事に七夕会を終えることができました。

お母さんに抱っこされて気持ちよさそうにしている子、もうハイハイやつかまり立ちができて元気に動きまわる子、さまざまな月齢の子が集まってくれました。みんなの成長を感じることができてとても嬉しかったです。

みんなで仲良く記念写真撮影♪七夕会の記念にカードにして持って帰ってもらいました。

次のイベントはクリスマス会☆またみなさん是非集まってくださいね。

ズームズームスタジアム野球観戦

診療録管理室 杉浦 和弥



昨年、好評を博しましたので昨年同様、今年度の親和会行事は、プロ野球観戦プラス秋には旅行を計画しております。まずズームズームスタジアム野球観戦に参加しましたので、観戦記を報告します。

今年度もカープ球団にチケットをお願いしまして、職員一同に回覧しました通り、下記のように予約が取れました。生憎6月18日は雨天中止となったのですが、その他の日の記念病院での観戦日の成績は2勝1敗と言う結果でした。

日 付	観 戦 場 所	対 戦 相 手	勝 敗
3月30日(火) (地元開幕戦)	びっくりテラス(大)	阪神タイガース	3-6 ●
5月27日(木)	びっくりテラス(小)	ロッテマリーンズ	3-0 ○
6月18日(金)	パーティーフロア(小)	ヤクルトスワローズ	雨天中止
7月2日(金)	ラグジュアリールーム	ベイスターズ	2-1 ○

私は、7月2日の世話係でベイスターズ戦を観戦しました。当日は息詰まる投手線?で6回終了して、1-1の同点、カープはそれまで無安打でしたが、7回好投ランドルフから四球で1死一塁とし、打席には石原。外角直球を右へ運ぶと一塁走者が一気に生還し、これが決勝点となりました。3回の1点も四球を足場にスクイズで挙げており、翌日の新聞記事では、セでは6年ぶりの1安打勝利。チームでは4月に急逝した巨人・木村拓也内野守備走塁コーチが初回先頭打者アーチを放って勝利した平成12年5月23日のヤクルト戦(福山)以来、



10年ぶりの珍事という試合でした。



H22 年度 地域医療従事者研修及び地域住民研修計画

	研 修 内 容	講 師	対 象	参加人数	担 当
4.27	医療安全研修会 「ヒヤハットKYTシートを使用して危険予知能力を磨こう」	江村 陽子	地域医療機関	7 5	医療安全委員会
5.20	第10回がん疾患関連セミナー 「前立腺がんの診断と治療」	松原 昭郎 (広島大学病院)	地域医療機関	5 3	医局
5.12	看護の日記念行事	/	地域住民	7 5	看護部
6.30	看看連携研修 「摂食嚥下研修会」	沖田 啓子 (西広島リハビリテーション病院)	地域医療機関	8 3	看護部
6.24	N S T 研修	坂下 吉弘	地域医療機関	7 3	N S T
7.10	ストーマケア	矢野 雷太 森本 純子	地域住民 地域医療機関	5 5	褥瘡委員会
7.15	医療倫理研修	松浦 雄一郎	地域医療機関	7 3	連携室
8.4	ふれあい看護体験	/	中学・高校生	4	看護部
11.4	感染対策研修	中野 隼	地域医療機関		I C T
11.30	第11回がん疾患関連セミナー 「PET を利用した高精度放射線治療」	広川 裕 (広島大学病院)	地域医療機関		医局
1 月	C P C 検討会		地域医療機関		医局
2 月	メンタルヘルス研修会		地域医療機関		連携室
	第2回健康教室 「乳がんについて」	坂下 吉弘	地域住民		連携室
3 月	第12回がん疾患関連セミナー		地域医療機関		医局

平成21年度 広島記念病院 学会報告者

学会名	演題	演題者
第43回 日本てんかん学会	中止により改善したカルバマゼピンによる低尿酸血症を呈したBCECTSの1例	小児科医師 岸 高正
第20回 日本小児神経学会 中国・四国地方学会	脳磁図が鑑別診断に有用であった徐波睡眠時に持続性を示すてんかんの1例	小児科医師 岸 高正
第78回 日本消化器内視鏡学会総会	多発直腸カルチノイドの1例	内科医師 津賀 勝利
第45回 日本超音波医学会中国 地方会	術前診断に体外式超音波検査が有用であった魚骨による小腸穿孔の1例	内科医師 津賀 勝利
第4回 広島消化管超音波研究会	感染性腸炎の超音波診断～キャンピロバクター腸炎～	内科医師 津賀 勝利
第95回 日本消化器病学会総会	当院における内視鏡的胃瘻造設術(PEG)後偶発症の検討	内科医師 田村 忠正
	急性虫垂炎に対する腹部超音波検査の有用性の検討	内科医師 西山 宗希
	内視鏡的膵管ドレナージtubeが著効した膵石膵のう胞合併の1例	内科医師 江口 紀章
	クローン病における胃、十二指腸内視鏡所見の検討	内科医師 隅井 雅晴
	肝細胞癌骨転移に対する経皮的骨形成術の検討	内科医師 児玉 英章
第91回 日本消化器病学会 中国支部例会	当院における超高齢者(85歳以上)の胃腫瘍性病変に対する内視鏡的治療の検討	内科医師 田村 忠正
第16回 日本門脈圧亢進症学会総会	血液透析中の食道静脈瘤患者に対して内視鏡的硬化療法を、良好な血栓化が得られている1例	内科医師 児玉 英章
第62回 広島医学会総会	急性虫垂炎に対する腹部超音波検査の有用性の検討	内科医師 西山 宗希
第101回 日本内科学会中国支 部地方回	NSAIDs小腸潰瘍の1例	内科医師 田中 雄一朗
	外科的大腸切除後に健常女児を出産された難治性潰瘍性大腸炎の1例	内科医師 隅井 雅晴
第92回 日本消化器病学会 中国支部例会	当院で過去6年間に外科的手術が行われたクローン病	内科医師 隅井 雅晴
	外科手術を施行した左側大腸憩室炎の2例	内科医師 西山 宗希
	虫垂カルチノイドの1例	内科医師 田中 雄一朗
第103回 日本消化器内視鏡 学会中国支部地方会	同時に2病変切除を行った直腸カルチノイドの1例	内科医師 田村 忠正
	Helicobacter Pylori陰性食道胃接合部癌の1例	内科医師 西山 宗希
	当院におけるBarrett食道癌の臨床的特長	内科医師 河村 徹
第10回 日本クリニカルパス学会 学術集会	大腸癌術後連携パスのバリエーション分析	外科医師 宮本 勝也
	大腸手術クリニカルパスにおけるドレーン抜去のバリエーション分析	看護師 平岩 佳奈
日本産婦人科学会 産婦人科同門会	当院で経験した横位帝王切開の3例	産婦人科医師 羽原 章子
	仙骨前面に発生した悪性末梢神経鞘腫の1例	産婦人科医師 羽原 章子
第11回 日本褥瘡学会 学術集会	回盲部切除後に仙骨部Deep Tissue Injuryを発症した1例	看護師 森本 純子
第40回 日本看護学会 学術集会 成人看護Ⅱ	自己効力理論を用いた糖尿病患者の効果	看護師 平岩 佳奈
第40回 日本看護学会 学術集会 老年看護	夜間排泄ケアの向上について～皮膚トラブルが生じないおむつ選択～	看護師 氏見 優子
第58回 日本医学検査学会	鳥肌胃炎とリンパ濾胞の関係について	臨床検査技師 永田 拓生
第58回 共済医学会	診断に難渋した悪性腹膜中皮腫の1例	外科医師 嶋田 徳光
	演題:セツキシマブ/イリノテカン併用療法施行後の副作用発現状況	薬剤師 佐々木 紀彰
	院内教育プログラム立案に向けた学習ニード及び学習ニードの調査～現任教育の構築をめざして～	看護師 江村 陽子
	業務量指針を用いた新人看護職員の育成	看護師 栗栖 稲子
	新人看護職員の到達時期調査から改定の取り組み	看護師 石光 京子
	新人育成ガイド到達時期の妥当性の検証	看護師 下土井 久美子
	新入看護師教育プログラムに対する評価	看護師 下土井 久美子
	効果的な乳房の手入れ—外来保健指導が母乳率に及ぼす影響—	看護師 国佐 美友
	服薬管理の標準化を図るために内服管理MAPを使用しての効果	看護師 郡司 郁絵
	救急カートの管理方法を改善して	看護師 岡部 恭子

広島記念病院の「理念」「憲章」「患者様の権利の尊重」について

病院のこころ、職員の姿勢を伝えることを意とし、平成10年6月病院建替え完成と同時に、下記の「理念」「憲章」「患者様の権利の尊重」を制定いたしました。患者の皆様やその関係者の方々等広くお知らせするため、病院玄関より各階すべてに掲示しております。日々の仕事のなかで実現できるよう努力しております。

理 念

患者の皆様が、安心して受診できる、やすらぎの環境及び満足と信頼が得られる最良の医療サービスを提供する。

憲 章

1. 私達は、「癒しの心」を医療の心として職務に専念します。
2. 私達は、患者様の人権と意思を最大限に尊重し、納得と同意に基づいた全人的医療を目指します。
3. 私達は、日々自己研鑽に励み、良質で温もりのある、地域に密着した医療を心がけます。
4. 私達は、地域医療体系に参加し各々の持てる機能の連携により、より合理的で効率的な良質の医療に努めます。

患者様の権利の尊重

- ◆ 患者様の人間としての尊厳を尊重し秘密を守ります。
- ◆ インフォームドコンセント（良く納得された上での合意）を基盤とし、信頼関係を確立します。
- ◆ 各科の有機的な連携を図り、高次で専門的な総合医療を行います。
- ◆ 癒しの心を持った、接遇、ケアを行います。
- ◆ 癒しの心を持った、入院環境、アメニティーの整備を心がけます。

地域医療連携支援室

TEL 082 (503) 1003

FAX 082 (503) 1010

代表 広島記念病院

TEL 082 (292) 1271

FAX 082 (292) 8175

庶務課

TEL 082 (503) 1001

内科・外科

FAX 082 (503) 0722

産婦人科・小児科

FAX 082 (503) 0723

耳鼻科・皮膚科・泌尿器科

FAX 082 (503) 0731

4病棟

FAX 082 (503) 1014

5病棟

FAX 082 (503) 1015

6病棟

FAX 082 (503) 1016

7病棟

FAX 082 (503) 1017

8病棟

FAX 082 (503) 1018